

<新学習指導要領を踏まえた授業改善について>

- ① 主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善のために必要だと考えること
 - ・インプットに対して常に Opinion を持たせ発信させ続ける訓練。
 - ・自分のこと（自身、町、考えなど）について発信させる機会を多く設定する。
 - ・正しい発音とイントネーションを身に付け、自信をもって英語で発信させたい。
 - ・発問作成の力一何を生徒に問うのかを、見極める力が必要である
 - ・教材開発の力一教科書の本文をそのまま使うだけでなく、どのタイミングで何を提示するのか、身につけさせたい力を付けるためには教材にどんな工夫を加えるべきかを考える必要がある。
 - ・ラポールの形成一生徒同士、また生徒と教員の信頼関係が築けていなければ、どんなによい発問をしても内容が深まっていかないと考える。
 - ・授業改善に対する心理的なハードルを下げるため、まずは授業改善に向けて多くの教員と意識を共有した上で、お互いに分担し合って教材を蓄積していくこと。が何よりも必要であるように感じる。共有できる教材が蓄積されれば、授業で取り組む際の心理的なハードルは低くなり、より多くの教員が実践でき、より多くの生徒が深く学ぶことができるようになるのではないかと思う。
 - ・深い学びを実現するための発展課題の設定を生徒のレベル、好奇心に合ったものにする。ほとんどこの課題設定で授業がうまくいくかどうかが決まるくらい大切なことであると考え。
 - ・「対話的」という点において、表面的な活発さに偏りすぎないよう教師がコントロールすること。生徒が活動的であることが必ずしも学びに繋がるとは限らないので、教師が生徒の学びが生じているかを見極める必要があると考える。
 - ・授業の組み立て（狙いを持ったバックワードデザインの授業）
 - ・アクティビティだけにとらわれないこと…目標と評価の関係（Constructive alignment）の明示
 - ・生徒が自分自身の学習を振り返り、これからの学習方法を考えることのできる「メタ認知」の方法…the methods for reflection
 - ・ICT の効率的な活用
 - ・教科書に記載されている内容を理解するだけでなく、その背景や関連事項についての深い理解。
 - ・Ice Break における簡単な発話を促す活動の充実。
 - ・『なぜだろう？』、『気になる！』を生徒に感じさせる授業の仕掛けの構築。
 - ・プレゼンテーションやディベート活動における、考えて表現する活動の充実。
- ② ICT（デジタルコンテンツを含む）のさらに効果的な活用するための工夫（今後やってみたいこと）
 - ・教室内に Wi-Fi 環境を整えば、Kahoot! などアプリを活用して、生徒が主体的に参加をしながら文法を確認できるのではないかと考えている
 - ・chat 機能を活用して、writing の練習をしてみたい（実際の使用場面に合わせた指導）
 - ・音声録音、ビデオ撮影を行い、即座に自分の姿を振り返られるような活動。例えば、プレゼン練習やスピーチ練習でタブレットを活用できるのではないかと。
 - ・タブレットを使つてのスピーキング力の向上
 - ・それを用いての評価方法の確立
 - ・Microsoft Forms の授業での使用（さらに授業の臨場感を高める方法についての研究）
 - ・生徒側の効果的なタブレットの使用法についての研究
 - ・表現活動のスマールステップの充実と、それに応じた教材の充実（主にパワーポイントデータの充実）
 - ・探究型の学習にするために、生徒個人の携帯を活用させ、調べ学習をさせたり、プレゼンを、携帯のアプリで作成させ発表させたりする。（教員による活用だけでなく、生徒に主体性をもたせて活用させる。）
 - ・ICT についてアウトプット活動との相性があるので、常時使うというより、必要な時にピンポイントで使うのが効果的であると考え。
 - ・動画の活用方法の研究
 - ・プレゼン指導
 - ・新たな板書、ノートテイキングについて
 - ・ICT でなければならぬことは何か

- ・ Authentic Materials（ニュースなどの動画）の投影。
- ・ 発音練習やリーディング活動において、自分の声を録音・再生して確認。
- ・ Retelling 活動において、タブレットのカメラを用いて自分の Retelling する様子を撮影し、自己評価。